

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度(評価)
 A:十分達成できている C:やや不十分である
 B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名		有田工業高等学校(全日制)		
1 前年度 評価結果の概要(簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上、心の教育、健康・体づくりについては、目標指標に対して、達成度はAまたはB評価と一定程度の成果を上げることができた。 ・業務改善及び教職員の働き方改革の推進については、時間外在校等時間が45時間を超える職員の割合は23%と減少傾向であるが、教職員のウェルビーイングの向上に向けて、さらなる業務改善に努める。 ・唯一無二の学校づくりについては、令和4年度から重点校として3ヶ年取り組んできたSAGAコラボレーション・スクール事業を完了したが、次年度以降、これまで取り組んできた地域連携事業のブラッシュアップとともに新たな地域連携事業を開拓する等、学校の魅力の磨き上げに努める。 			
2 SAGASクール・ミッション 学校教育目標	<p>【スクールミッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○有田が持つ様々な地域資源を活用し、ものづくりを通して生涯学び続け、新しい価値を生み出す技術者を育成する。 ○国内初の陶器工芸学校の伝統を継承するセラミック科、デザイン科の魅力を磨き上げるとともに、広く県内外に発信して生徒を募集し、学校及び地域の更なる活性化を目指す。 <p>【学校教育目標】</p> <p>勉脩「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立した人間の育成</p> <p>「愛し」:自分を大切にし、他人を思いやる 「創り」:新しいことに積極的に挑戦していく 「光れ」:一人ひとりが社会に貢献できる人間になる</p>			
3 スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりに関しての興味・関心が高い生徒 ・専門的な知識・技術を身につけるために、各学科の学びや資格取得に積極的に取り組もうとする生徒 ・地域や社会に何かの形で貢献したいという意欲のある生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの技術者として必要な、基礎学力と専門的な知識・技能を習得できる授業を行います。 ・学校行事・ホールルーム活動や部活動、地域との連携などによる協働活動を通して、社会人としての基本的な姿勢や思いやりの心、自律心を伸ばします。 ・生徒会活動や資格取得・コンテスト参加について、生徒の主体的、自発的な取組となるようにサポートを積極的に行います。 ・生徒それぞれが個性や長所を把握できる取組や、3年間を見通したキャリア教育で、生徒の進路意識を育み、進路実現につなげます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりを通して、生涯学び続ける技術者となる生徒 ・自己や他者、地域を愛し、地域から愛される生徒 ・積極的に挑戦し、新しい価値やものをつくり出す生徒 ・個々の個性を光らせ、地域や社会に光を灯す生徒 	
4 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域を愛し地域に愛される学校づくり」を通して、地域振興に貢献する。 ・本校が有する4つの学科(セラミック科、デザイン科、機械科、電気科)の魅力発信を通して、県内外における生徒募集に努め、志願者数の増加に向けて取り組む。 			

5 重点取組内容・成果指標 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
重点取組				達成度(評価)	実施結果
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組		
●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ものづくりの技術者として必要な基礎学力及び専門的な知識・技能を習得するための授業改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の定着を図るため、教育課程編成及び学力向上に向けた会議を4回実施することで、PDCAサイクルの推進に努める。 ○基礎的な学力の定着のため、基礎力テストの年間全体平均を7.0点以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会及び学力向上対策委員会を活性化させ、より効果的な評価方法を確立する。また、遠隔授業等の整備を進めることで、学力の定着を図る。 ・研究授業や授業公開週間を年2回設定することで、教員が相互に授業を参観し、指導助言を行うことで、授業改善に繋げる。 ・基礎力テスト前日に対策の時間を設けて学力向上に繋げる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会にて、教育課程の編成及び遠隔授業実施に向けた要項の検討を行い、次年度、遠隔授業実施に向けた要項作成及び準備を進めることができた。 ・第2回授業公開週間では、教員が相互に授業を参観することで、改善点などの指摘し合うことで授業改善に繋げることができた。 ・各クラスにおいて基礎力テストに向けた事前の取組及び学校全体の対策の時間を設けたことで、2学期末までの平均点は7.6点という結果であった。この結果から、全体的な学力向上に繋げることができた。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●豊かな心を育む教育活動を実施し、「生命を尊重する心の大切さがわかった」と回答した生徒95%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望調査を年2回実施し見学や説明会の機会を紹介し進路意識を高める。 ・PTAや評議員の協力を頂き、2週間に渡り全員2回の面接指導を行う。 ・各科裁量で先輩から後輩へ進路決定までの体験内容を発表し、アドバイスを励むの機会をつくる。 ・外部講師による性に関する講話・教育相談講話(7月)、人権・同和教育講演会(10月)を実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・希望調査を年2回実施し見学や説明会の機会を紹介したことで、3年生は進路意識を高めることができ、2年生の進路室への来訪が増えた。 ・PTAや学校運営協議会委員の方、計6名の協力を頂き、2週間に渡って2回の面接指導を行うことができ、96名の就職希望者が内定した。 ・12月に進路体験発表会を実施し、進路が決まった3年生から1、2年生へ、就職や進学を決め方や準備に必要な心構え等アドバイスのおかげで、1、2年生の進路室への来訪が増えた。 ・3月に県内企業紹介を実施するとともに、保護者へも周知して知っていただく機会をつくっている。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○「健康を考えた行動できる能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ⑥「健康を考えた行動できる能力の育成」 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取を進める講話、便りの発行を年度内に3回以上実施する。 ・アンケート調査を複数回実施、分析し、生徒の食の意識向上を測る。 ・昨年度のアンケート結果を分析、原因を調査し、摂取率を高めるための情報提供、相談を実施する。 ・メッセージを活用し、全ての保護者に保健だよりを配信し、受診率の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・食育便りは12月末時点で2回発行数している。3学期に好機を図り、3回目を発行する。 ・6月に1年生に実施した朝食に関するアンケート調査では、毎日朝食を摂っていると回答した生徒は91%おり、残り9%の生徒も食事の大切さは認識している。第2回学校評価アンケート結果から、朝食を摂るようになった生徒数は全体の20%を超えており、目標数値は達成できている。 ・歯科への受診勧告書の発行数は前年度同様であったが、夏季休業明けの受診報告者数からは、生徒たちは口腔治療に積極的であったと思われる。また、個別の受診勧告のほかにも各学期の節目毎に生徒へ受診と受診報告を呼びかけ、自身の健康管理意識を高めた。
●特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○(学校独自重点取組・任意) ○生徒に関する情報共有と継続的な生徒支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○(学校独自成果指標・任意) ○生徒情報共有機会を4回以上設定。 ○教職員の特別支援教育の理解度向上70%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動体験入部の期間、部活動編成会を実施し、生徒の部活動加入を促進する。 ・部活動紹介、HP部活動ニュースの充実を図る。 ・部活動予算・体育文化奨励費の適正な運用と練習環境の整備・改善を行う。 ・体育科との連携による体力を高める運動の実施とマラソン練習期間を確保する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・寮業研究部3年生の日本和グランプリ学生最優秀賞の受賞を筆頭に、放送部の九州大会ラジオ制作部門の優勝と全国大会出場、ウエイトフライング部の全国大会での入賞、デザイン科のフアンション甲子園出場、漫画研究部、ロボット研究部の全国マイコンカーラリー出場、文芸部、等で上位大会に出場する部活動が多く、各部の活性化が十分見られた。 ・マラソン大会の距離を男子10km女子6kmに縮小して実施した。練習時間も十分に確保できたこともあり、体調不良者等を出すことなく無事に大会を行うことができた。また、目標としていた校内マラソン完走率については男子完走率100%、女子完走率100%ということで無事に達成できている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日を水曜日に設定し、呼びかけのポスター掲示や職員朝礼時に口頭による啓発を行う。 ・年次休暇を取得しやすい職場環境づくりに努める。 ・部活動休養日を設定し生徒とともに職員の休養取得を促進する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日の職員朝礼の際に、書面及び口頭で、定時退勤推進日である旨を周知できた。 ・平均10.7日の年休取得であった。指導に熱意をもって取り組まれており、計画的利用の啓発を強めた。 ・各部に休養日の報告を求めた。土日の活動が多い部には、週末以外の部活休み設定を呼びかけた。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組				最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
○地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ★学校運営協議会(学校魅力強化委員会)の更なる活用による地域・外部との連携強化 ◎地域や外部と協働し、高校の魅力強化及び志を高める教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ★学校運営協議会を年4回開催する。 ★学校運営協議会で提案された事業を最低1個実現する。 ◎地域から大切にされている雰囲気を感じると答えた生徒の割合を80%以上、教職員の割合を90%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年目となる学校運営協議会のメンバーを刷新し、生徒との意見交換の場を設けるとともに、熟議の充実を図り、地域・外部との連携の充実を図る。 ・学校行事である「地域学習の日」や、生徒会、部活動による地域に出向いた活動の充実を図り、地域を愛し地域から愛される学校づくりに努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を年4回開催し、学校運営協議会で提案された事業を複数実現できた。 ・第3回学校魅力化評価アンケートの結果、地域から大切にされている雰囲気を感じると答えた生徒の割合91.8%、教職員の割合を97%と目標値を大きく上回った。
○唯一無二の学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ★「地域みらい留学」を通した全国募集の更なる推進(セラミック科・デザイン科)と受け入れ生徒の支援体制の確立 ◎生徒のウェルビーイングの向上 ○学校の魅力発信の強化と広報活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合83%以上、教職員の割合90%以上を目指す。 ★県外からの体験入学の参加者数48名以上、県外からの受検志願者25名以上を目指す。 ◎地域みらい留学志願者5名以上を目指す。 ◎今の生活の満足度(生徒の肯定的回答10段階中の6以上)72%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県外からの志願者増に向けて、隣接地区(佐世保・松浦地区)の中学校へ訪問し、体験入学及び地域みらい留学の広報活動を実施する。 ・生徒インスタグラム更新チームによるリアル動画の掲載により、学校の魅力発信及び広報活動の充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校魅力化評価アンケート(生徒)の結果、自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合83.8(1回目)、79.2%(2回目)、教職員の割合91.7%であった ・特別選抜段階での地域みらい留学での志願者は6名で、目標5名を上回った。 ・学校魅力化評価アンケート(生徒)の結果、「今の生活の満足度」(生徒の肯定的回答10段階中の6以上)は72.7%(1回目)、70.0%(2回目)であった。 ・県外からの志願者増に向けて、隣接地区(佐世保・松浦地区)の19校の中学校(昨年度比7校増)へ、6月と10月の2回訪問し、体験入学の案内、高校入試実施要項の配付、地域みらい留学の広報活動を実施した。 ・窯元のある地域(上野焼、小石原焼、小鹿田焼、薩摩焼)の中学校への訪問する等、精力的に地域みらい留学にに係る生徒募集の広報活動ができた。 ・インスタグラムのフォロー数は929名(4月:537名)から392名の増となった。生徒インスタグラム更新チームによるリアル動画を更新するなど学校の

6 総合評価・次年度への展望(簡潔に)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の検証や授業公開、基礎力テストの実施により基礎学力の定着と学習意欲の向上が見られた。今後も取組を継続し、授業改善と学習支援の充実を図り、さらなる学力向上を目指す。 ・定時退勤推進日の周知や部活動休養日の設定など働き方改革を組織的に推進できたが、年休の計画的取得が引き続き課題である。次年度は休暇取得の啓発と部活動休養日の徹底により、教職員が健康に働ける環境整備を進めていく。 ・いじめ事業については早期発見・早期対応により重大事案に至ることはなく、担任を中心とした組織的な指導体制やスクールカウンセラーの活用により適切な対応ができていた。今後も教職員の連携を強化し、いじめの未然防止と早期対応に努めていく。 ・生徒アンケートでは一定の満足度が得られたがさらに高めていきたい。地域みらい留学の志願者は活躍の場を上げ一定の成果が見られた。今後は受入体制の充実と広報活動の強化を図り、学校の魅力向上と志願者確保に努めていく。
---------------------	---